



歴史から学ぼう「災害と昭和区」

防災マップ編



過去の昭和区の地形や地名の由来を知って、
災害の危険個所を把握しよう！



桜山中学校近くの地蔵。かつて広見池
があった名残を留めています。

明治時代に「ため池」だった場所

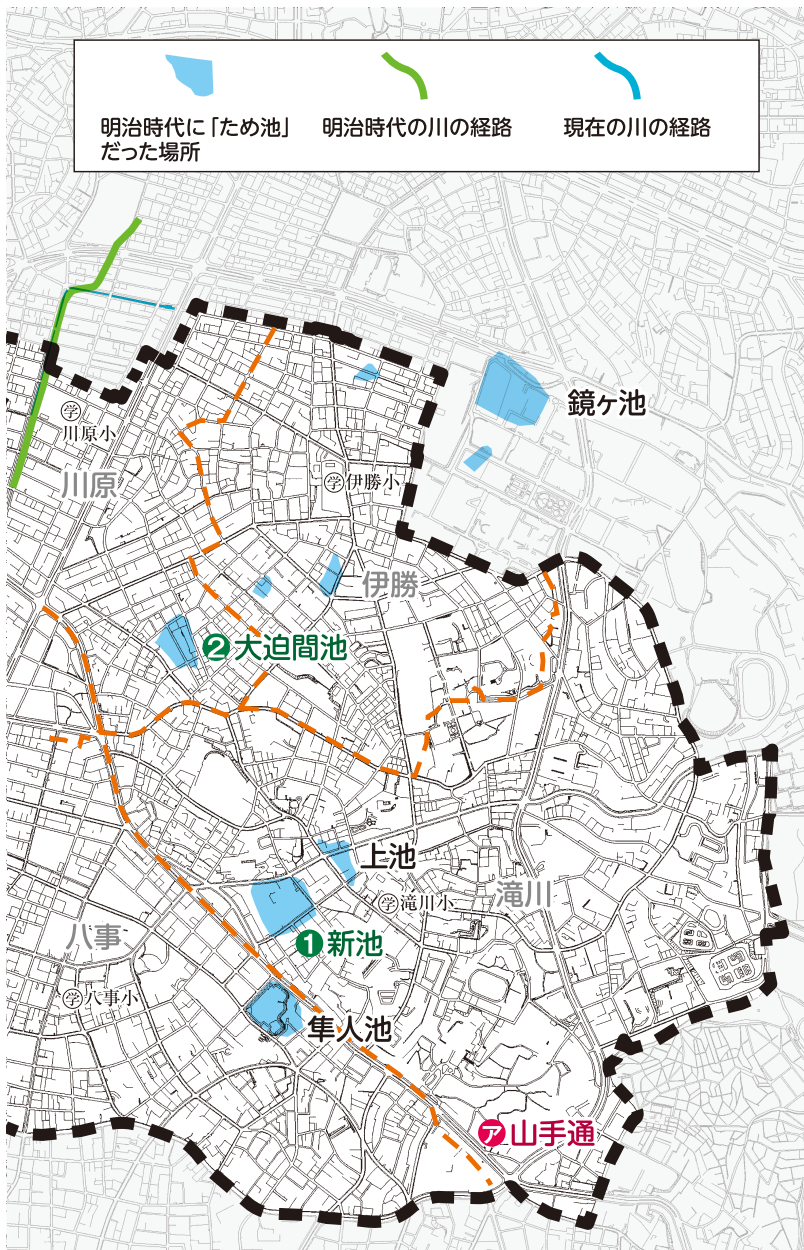
「ため池」だった場所は、埋立地となるため、地盤があまり強くない場合があります。強い地震の際には液状化などに注意しましょう。

番 号	池 名	解 説
①	新池	農業用のため池として利用されていましたが、大正以後に埋め立てられました。
②	大迫間池	山崎川が田畑より低い所を流れていたため、狭くて長くば地に雨水などを貯めて、農業用のため池として利用されていましたが、戦後に埋め立てられました。大迫間池の迫間とは土地の狭い間という意味です。
③	丸池	山崎川が田畑より低い所を流れていたため、雨水などを貯めて、農業用のため池として利用されていましたが、大正以後に埋め立てられました。
④	広見池	農業用のため池として利用されていたほか、養魚場があり、うなぎや鯉などを養殖していましたが、大正以後に埋め立てられました。
⑤	天池 (雨池、龍興寺池)	農業用のため池として利用され、大正以後に埋め立てられました。埋め立て後も昭和の初めごろまでは小川が流れ、大雨になると道路が水に浸かりました。

地名の由

地名の由来を調べます。由来を調べ

番 号	地 名
ア	山手通
イ	長池町
ウ	池端町
エ	狭間町
オ	滝子通
カ	白金



コラム：「氾濫の多かった精進川」

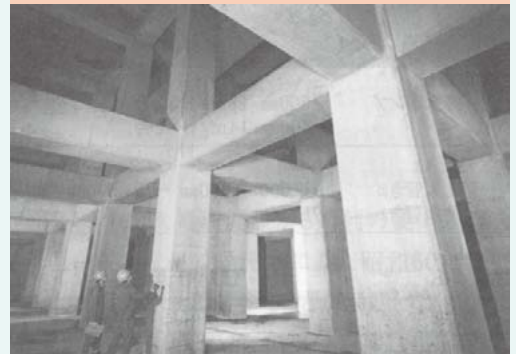
精進川はかつて市東部と愛知郡との境を流れていた川で、池の余り水や流域の雨水、生活排水などを水源としていました。昭和区付近では低湿地帯を流れていましたが、大雨が降るたびに氾濫を起こしていました。

このため、明治末期に改修、河道の変更が行われ、現在の新堀川が開削されました。この結果、以前のように大雨のたび河川が氾濫を起こすことはなくなりました。また、旧精進川の河道にあたる高辻付近は、大雨による浸水被害を受けやすい地域だったため、1986（昭和62）年高辻交差点南東に雨水滞水池が建設されました。この滞水池は3万㎡を貯留することができ、付近の浸水を防ぐ役割を果たしています。

開削工事中的ようす
「名古屋市史」より



高辻雨水滞水池の内部
「名古屋市下水道事業百年史」より



大正初期の天池
「昭和区政概要」より



来について

べると、土地の成り立ちが元になっている名前があり、防災に役立てましょう。

由来（ ）は注意しなければならない災害です。
「新しく山手に造られた通り」の意味です。（土砂災害）
江戸期の村絵図によると、ここにため池があり、その名称が「長池」でした。（液状化）
広見池の池端に当たることから名付けられました。（液状化）
御器所台地の谷狭間にあたることによります。江戸期の絵図によると、灌漑用の小川が竜ヶ池に流れていました。（水害）（液状化）
広見池の水の一部が南へ流れ、滝となっていたことから、滝のある村の意味に由来します。（水害）（液状化）
精進川の氾濫により押し出された土砂で、辺り一面が白く見えたことによるという伝承があります。（水害）（液状化）



歴史から学ぼう「災害と昭和区」

災害史編

◎伊勢湾台風 1959 (昭和34) 年9月26日夜半

東海地方をはじめ、全国に甚大な被害をもたらした「伊勢湾台風」は、この昭和区にも被害をもたらしました。新堀川や山崎川の沿岸は高潮の逆流のため一時危険状態に陥ったほか、白金学区では新堀川の満潮時の逆流で339世帯に床上浸水を出しました。また、昭和区は被害の大きかった南区から避難した児童を受け入れるなど、復興の面でも大きな役割を果たしました。

橋のたもとの堤防が崩れた檀溪橋
「港防災センター 伊勢湾台風ライブラリー」より



伊勢湾台風後の高辻付近
「創立50周年記念 白金」より



昭和区の被害

項 目	被 害
死者	2名
負傷者	874名
住家全壊・半壊	398戸
住家浸水	1,385戸
り災者総数	8,480名
り災世帯数	1,878世帯

全壊した渡り廊下 (吹上小学校)
「伊勢湾台風災害誌 名古屋市小中学校 昭和区」より



南区からの被災児童受入の対面式 (白金小学校)
「伊勢湾台風災害誌 名古屋市小中学校 昭和区」より



避難所となった昭和区

昭和区は比較的高台に位置し、全般的に被害は少なかったため、被害の大きかった南部地域の救済のため9か所の避難所が開設され、南区などから1,300人ほどが避難してきました。避難所生活は11月中旬まで続きました。

◎昭和区 災害関係年表

年 代	主 な で き ご と
1586 (天正13) 年	1 月18日 飛騨もしくは尾張を震源とする「 天正地震 」発生。名古屋の震度は6～7と推定
1707 (宝永 4) 年	10月28日 東南海道沖を震源とする「 宝永地震 」発生。名古屋の震度は5～6と推定
1854 (嘉永 7) 年	12月23日 遠州灘東部を震源とする「 安政東海地震 」発生。名古屋の震度は5～6と推定 翌24日には四国南方海上を震源とする「 安政南海地震 」発生。名古屋の震度は5と推定
1891 (明治24) 年	10月28日 岐阜県大野郡根尾村を震源とする「 濃尾地震 」発生。名古屋の震度は7と推定
1937 (昭和12) 年	10月 1 日 昭和区誕生 。(面積21.73km ² 人口155,800人)
1944 (昭和19) 年	12月 7 日 紀伊半島沖を震源とする「 東南海地震 」発生。名古屋の震度は5と推定
1945 (昭和20) 年	1 月13日 渥美湾を震源とする「 三河地震 」発生。名古屋の震度は4～5と推定
1946 (昭和21) 年	12月21日 紀伊半島沖を震源とする「 南海地震 」発生。名古屋の震度は4と推定
1959 (昭和34) 年	9 月26日 「 伊勢湾台風 」が襲来。名古屋市を始め全国に大きな被害をもたらす、昭和区でも死者2名
1983 (昭和58) 年	9 月28日 台風10号の接近に伴う、秋雨前線活動の活発化により 豪雨災害 が発生。昭和区でも死者1名
2000 (平成12) 年	9 月11日 「 東海豪雨 」により、名古屋市に大きな被害をもたらす。昭和区でも1時間82mmの雨量を観測

※ は南海トラフで発生した大地震



昭和区を襲った過去の災害をしっかり学んで、
将来起こるかもしれない災害に備えよう！

◎1983(昭和58)年9月28日の豪雨災害

台風10号の接近に伴う秋雨前線活動の活発化により、1983(昭和58)年9月28日午後、名古屋市を中心とする愛知県西部で1時間60mm～80mmの集中豪雨を伴う大雨となりました。昭和区においても、28日午後3時から4時までの1時間に74mmの猛烈な豪雨となりました。この豪雨のピークがちょうど小、中学校の下校時刻と重なったことから、昭和区高峯町では下校途中の小学生が雨で増水した側溝に足をとられて激流に流され犠牲となりました。また、昭和区以外でも、名東区、守山区、尾張旭市で4人の児童らが犠牲となりました。昭和区内の床上浸水は52世帯、床下浸水は1,070世帯に及びました。

◎濃尾地震と昭和区

1891(明治24)年10月28日、揖斐川上流域の岐阜県大野郡根尾村を震源とする濃尾地震が発生し、岐阜県や愛知県を中心に大きな被害をもたらしました。昭和区でも家屋の倒壊等の被害を受けました。

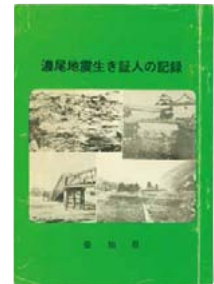
濃尾地震の現在の昭和区の被害

項 目	広路村	御器所村
死者	0名	0名
負傷者	0名	0名
住家全壊	1戸	4戸

コラム：濃尾地震の体験（「濃尾地震生き証人の記録」愛知県より抜粋）

（名古屋市昭和区：近藤まつさんの記録）

其の時、私は七才でした。（中略）道を歩いていると何だか地面が大きく揺れて、履いていた草履が脱げてしまいます。（中略）さすがに気味が悪くなり家へ帰ろうとしました。しかしなかなか歩けません。桑の木に掴まりながら漸く家の近くまで来ました（中略）。地震は始めから大きく揺れ、時間もかなり長かった様に思います。当時くびり池（現在の鏡ヶ池）の上手に大人が三人で手をつないだ位の太い松の木がありましたが、その大松がしわーしわーと大きく揺れていかにも恐ろしいと思いました。（中略）何度も揺れる余震が恐ろしく、夜は外の小屋で一ヶ月位寝た様に覚えています。



◎東南海地震と昭和区

1944(昭和19)年12月7日、紀伊半島沖を震源とする「東南海地震」が発生しました。地震は大きな津波を伴い、静岡県や三重県などに大きな被害をもたらしました。昭和区でも家屋の倒壊等の被害を受けました。

東南海地震の昭和区の被害

項 目	昭和区の被害
死者	0名
重傷者	1名
住家全壊・半壊	32戸

南海トラフ沿いでは、100年から200年の間隔で海溝型の大地震が繰り返して発生しているんだ。昭和区でも大きな揺れが想定されているから、みんなも気を付けよう！



【参考文献】愛知県(1993)『愛知県災害誌 昭和56年～平成3年編』愛知県編
愛知県(1971)『愛知県災害誌(普及版)』愛知県編
制作者不明(製作年不明)『伊勢湾台風災害誌 名古屋市小中学校 昭和区』
名古屋市総務局調査課(1994)『伊勢湾台風災害誌(復刻版)』名古屋市(消防局防災部防災室)編
昭和区政施行50周年記念事業委員会(1987)『昭和区誌 昭和区政施行50周年記念事業委員会編』
名古屋市昭和区役所総務課(1962)『昭和区政概要 昭和区政施行50周年記念事業委員会編』
名古屋市市民局災害対策課(1984)『昭和58年9月28日集中豪雨に関する記録』名古屋市市民局災害対策課編
飯田淑事(1977)『昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布』愛知県防災会議
名古屋市立村雲小学校(1983)『創立五十周年記念誌 改訂版「むらくも」』五十周年記念事業運営委員会編
名古屋市立白金小学校(2002)『創立50周年記念 白金』名古屋市立白金小学校編
名古屋市上下水道局(2012)『名古屋市下水道事業百年史』名古屋市上下水道局編
名古屋市立松栄小学校開校五〇周年記念誌編集委員会編(1986)『名古屋市立松栄小学校開校五〇周年記念誌』
名古屋市立松栄小学校開校五〇周年記念誌編集委員会編
名古屋市経済局観光貿易課(1982)『名古屋のお地蔵さま』名古屋観光推進協議会
株式会社 角川書店(1992)『なごやの町名』名古屋市計画局
愛知県(1979)『濃尾地震生き証人の記録』愛知県編
名古屋市防災会議(地震対策専門委員会)(1978)『濃尾地震文庫目録』名古屋市
名古屋市昭和区社会科学研究会(1955)『のびゆく昭和区』名古屋市昭和区教育協議会
名古屋市立広路小学校(1972)『わたしたちの広路 その歴史と風土』名古屋市立広路小学校編
朝日新聞1983年9月29日朝刊 20面、21面